

第16回 自然資本のマネジメントに関する研究会 議事概要

日時：令和6年3月11日 14:00~18:00

場所：政策研究大学院大学、TEAMS 併用（ハイブリッド開催）

出席者：小田切委員（座長）、神井委員、瀬田委員、瀧委員、橋本委員、平井委員、瀧川委員、石井委員、荒木委員、松本委員、後藤委員、中澤委員、井上委員

第16回研究会では、最終報告案と市町村等の現場に対するメッセージに関する意見交換を行なった後、研究会メンバー間で本研究会の検討経緯の振り返りを行うとともに、最終報告の内容を受けた今後の展望について意見交換を行なった。

主な意見交換の概要は以下のとおり。

<最終報告案に関する意見交換>

- ・ 「土地利用の在り方」の論点に関して、「土地利用制限を許容するだけの公益性をどう判断するか」の表現ぶりについて意見が行われた。
- ・ 最終報告の本文は研究会メンバーの合意文書として公表するという位置づけである一方、提言コラムは個人の見解として記載するという位置づけであることを踏まえて、文言調整を行うことが確認された。
- ・ 「対話・合意形成のプロセスデザイン」の論点に関して、「女性や若い世代、他の地域から転居してきた住民など」従来の意思決定の仕組みに参加する機会が少なかった関係者の位置付けの表現ぶりについて意見交換が行われた。
- ・ 最終報告に「越境」についての記載があるが、現場で越境を進めようと思うと難しさがあるとの話題提供があり、どのように越境すれば良いか事例を示すことが出来ると有用という意見交換が行われた。

<メッセージに関する意見交換>

- ・ メッセージの相手方をよりクリアにするよう、自然資本を使って地域課題を解決することを目指す主体であることが分かるようなタイトルにすることが提案された。
- ・ メッセージでは、第3章、第4章のサブタイトルとタイトルを入れ替えるとより分かりやすいとの提案があった。
- ・ 自然資本のマネジメントという言葉がまだ多くの人に認識されていないことから、地域課題の解決が自然資本と繋がることを伝えられると良いこと、自分事にできるような入りの表現を工夫する提案があった。
- ・ このメッセージを伝える相手方として、トップマネジメント向けに限らず、例えば、地域住民らが首長に働きかける際などにも使えることを想定するとの意見交換が行われた。
- ・ 読者が最終報告の5つのポイント全てに取り組まなければとハードルを高く感じることをないように、まずはメッセージを読んでみて、少しでも関心を持ってもらえるよう表現を工夫したいとの提案があった。

- ・ 何とか状況を変えたいと取り組んでいる方に、自然資本の考え方を持つとそれが容易になるということを伝えられると良いとの提案があった。生態系サービスのことを考えると、より課題を解決しやすくなる旨の表現が冒頭にあると良いとの提案があった。
- ・ 想定読者として、具体的にどういった主体を想定しているか列挙しても良いとの提案があった。
- ・ 人口減少で財政も難しい中で生じている国土管理・土地利用・耕作放棄・流域治水等の論点を記載し、こうした議論は国際的にも生態系サービス・自然資本のマネジメントの問題として論点となっていることを伝えるという構成への提案があった。
- ・ 既存の枠にとらわれずに全体を見渡して市町村の在り方を考える必要が生じており、そういった皆さんの力になりたくて提案をまとめたという趣旨の書きぶりとする提案があった。
- ・ 少しでも見てもらえるように、最初のメッセージは可能な限りキャッチーで柔らかいものとしてあると良いとの提案があった。

＜研究会の振り返りと今後の展望＞

- ・ 参加した研究会メンバーそれぞれから、本研究会の検討経緯を振り返って、そのプロセスで得られた気づきや、今後、それぞれの研究活動、政策立案活動への取組方針などについてコメントし、研究会の総括を行なった。

以上